

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-179	15-041	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Holidays, celebrations, and commiserations: measuring drinking during feasting and fasting to improve national and individual estimates of alcohol consumption. 祝祭日の個人飲酒量調査によるイギリスの総飲酒量の推計		
執筆者		
Bellis MA, Hughes K, Jones L, Morleo M, Nicholls J, McCoy E, Webster J, Sumnall H.		
掲載誌		
BMC Med. 2015 May 22;13:113. doi: 10.1186/s12916-015-0337-0.		
キーワード		PMID
飲酒、休日、機会飲酒、アルコール類販売量、飲酒量調査		25998218
要 旨		
<p>目的： 飲酒の健康影響を評価するためには正確な飲酒量を測定することが重要である。しかし、多くの国で飲酒量の調査結果とアルコール飲料の出荷量に大きな乖離が生じおり、イギリスの調査結果は販売量の60%程度でしかない。そこで、飲酒量をより正確に測定するために日常の飲酒量に加えて特別な日（宴会・ダイエット中など）の飲酒量を調査した。</p> <p>方法： 2013年5月-2014年4月にイギリスに居住している16歳以上を対象に全国で無作為抽出による電話調査を行った。回答者(6,085名)から日常の飲酒量（1日あたり、頻度）と普段と飲酒量が違う日（金曜日の夜など）、特別な日（休日など）、特別な出来事（結婚式など）の飲酒量を得た。一般化線形モデルを用いて、性、年齢、日常の飲酒量別に非日常や特別な出来事の飲酒量の増加分を算出した。</p> <p>結果： イギリス国民の飲酒量は、非日常や特別な出来事の飲酒により、120百万単位/週（～12百万本のワイン）以上増加した。最も大きな変化量が見られたのは、25歳-34歳の最も多く飲む群で、非日常や特別な出来事の飲酒で男女とも18単位/週(144g)増加した。1単位/週以下の最も日常の飲酒量が少ない群は、最も大きな増加率(209.3%)を示した。特別な飲酒を加味すると年間の飲酒量が減少する群もあった（65-74歳女性の最も日常の飲酒量が多い群など）。</p> <p>結論： 日常の飲酒量を調査するだけでは実際の総飲酒量の予測はできず、非日常や特別な飲酒を加味することで、調査と販売量の41.6%の差を埋めることができる。特別な飲酒は多量になることが多く、これがアルコールに起因する疾病・負傷を増加させている。アルコールの有害性と飲酒量の関係を適切に把握するために、祝祭日の量の調査が必要である。</p>		